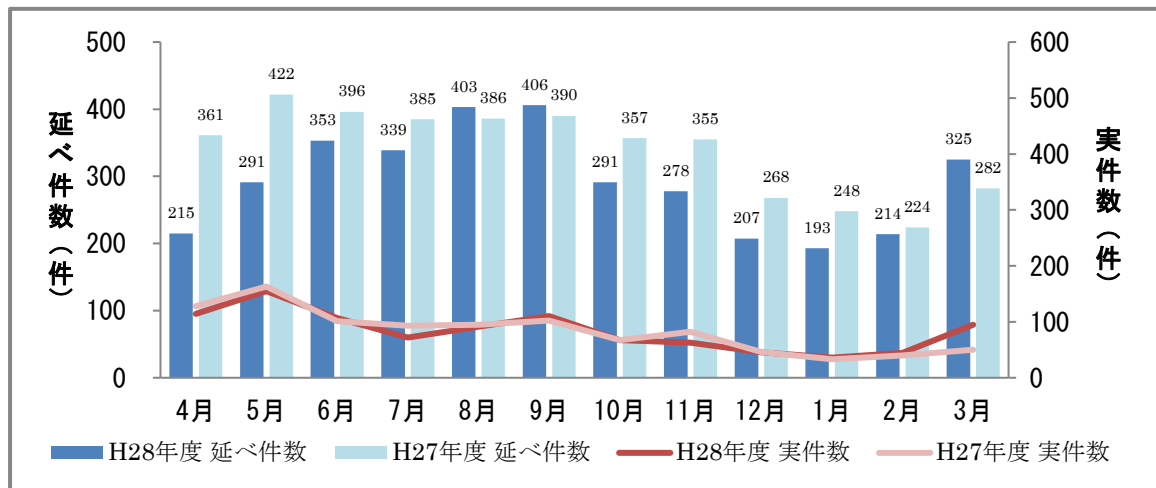
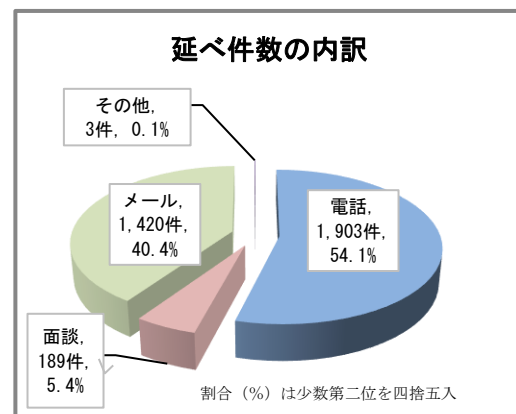
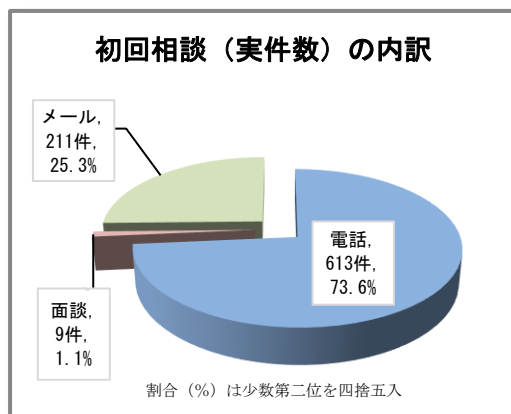


1 月別相談受付状況



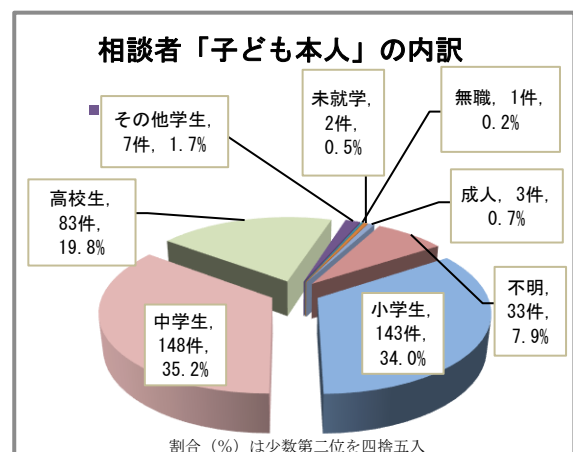
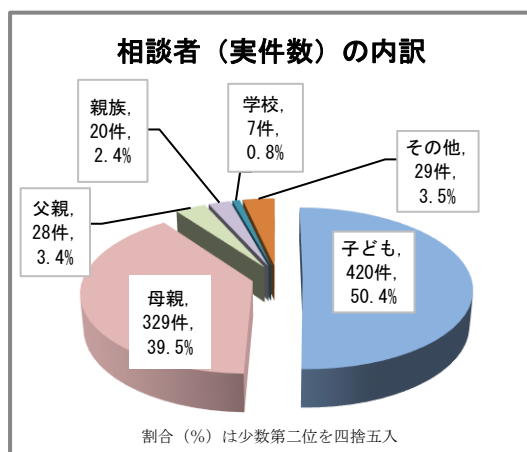
平成27年度及び平成28年度は、5月と8月に子ども用相談カード（名刺の大きさ）を配布（5月：小学生及び特別支援学校生徒、8月：中学生及び高校生）しました。また、3月には大人向け広報紙「あしすと通信」を、学校を通じて全生徒の保護者に配布しており、これらの広報物の配布直後には、PRの効果により相談件数が増加する傾向が続いています。

2 相談方法の内訳



初回相談については、電話による相談が最も多く7割強となっています。述べ件数についても電話による相談が5割以上を占めますが、メールによる相談はやり取りの回数が増える傾向があるため、延べ件数ではメールの割合も約4割を占めています。

3 相談者、相談者「子ども本人」の内訳



相談者とは、相談してきた人のことをいいます。子ども本人からの相談が半数以上となっており、中でも中学生・小学生からの相談が多い傾向があります。

延べ件数全体における相談者と相談方法のクロス集計は、下表のとおりです。

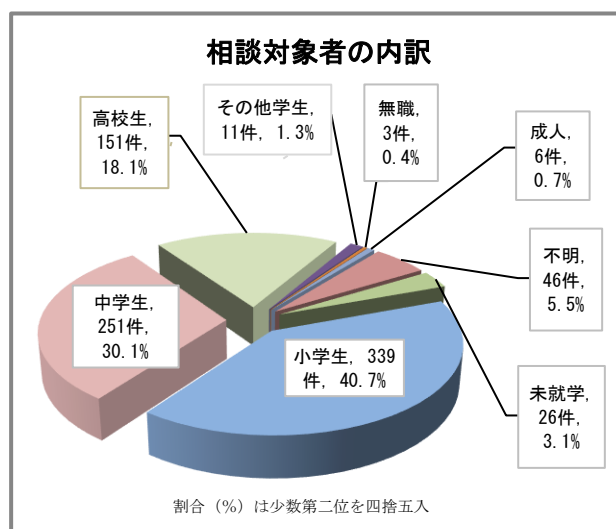
例年同様、子ども本人からはEメールによる相談の割合が多く、保護者からは電話による相談の割合が多くなっています。

相談者と相談方法（延べ相談者数）

区分	子ども本人	父親	母親	親族	学校	その他	合計
電話	939	38	736	34	76	80	1,903
	26.3%	1.1%	20.6%	1.0%	2.1%	2.2%	53.4%
面談	85	15	116	2	9	14	241
	2.4%	0.4%	3.3%	0.1%	0.3%	0.4%	6.8%
Eメール	1,249	14	144	0	1	12	1,420
	35.0%	0.4%	4.0%	0.0%	0.0%	0.3%	39.8%
その他	1	0	2	0	0	0	3
	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%
合計	2,274	67	998	36	86	106	3,567
	63.8%	1.9%	28.0%	1.0%	2.4%	3.0%	100.0%

※相談者が複数の場合があるため、合計は相談件数に一致しない。

4 相談対象者⁴の内訳

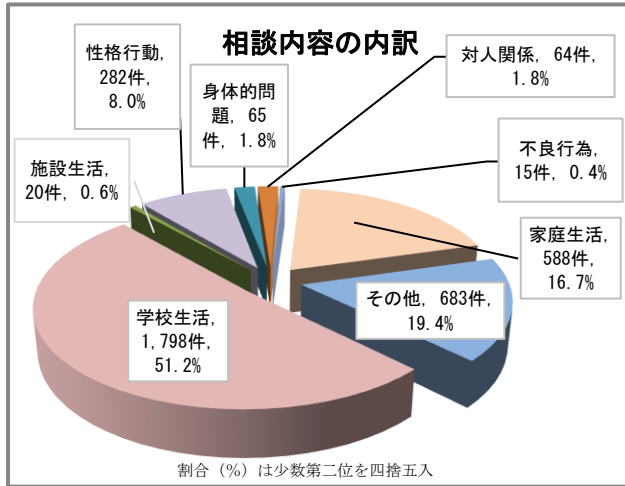


相談の対象となった子どもの内訳は、小学生が約4割を占めており、中学生が約3割、高校生が約2割を占めています。

4 相談対象者

相談の対象となっている子どもを指します。母親から小学生に関する相談があった場合には、「相談者」は母親となり、「相談対象者」は小学生となります。中学生の子ども本人が自分のことについて相談してきた場合には、「相談者」は子どもとなり、「相談対象者」は中学生となります。

5 相談内容の内訳



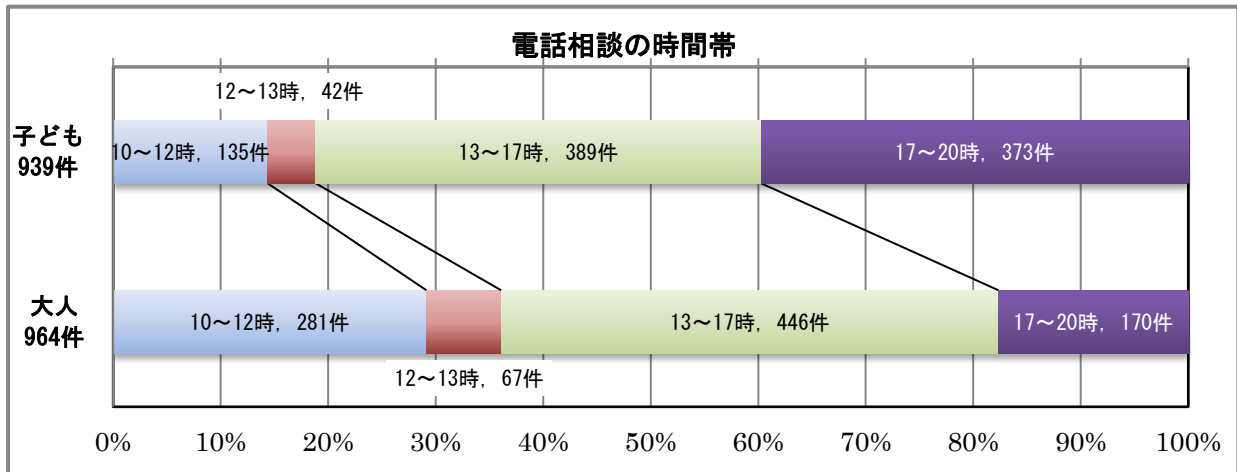
子どもアシストセンターでは、相談内容を「家庭生活」、「学校生活」など8項目に分けています。

延べ件数全体で相談内容の内訳をみると、「学校生活」に関する相談が5割以上を占め、次に「家庭生活」、「性格行動」についての相談が多く、例年と同様の傾向です。

さらに 33 の細目に分けると、上位 5 項目は、下記のとおりです。

子ども (2,274 件)		大人 (1,241 件)	
① 友人関係	507 件 (22.3%)	① いじめ	169 件 (13.6%)
② 親子・兄弟関係	199 件 (8.8%)	② 不登校	165 件 (13.3%)
③ 学習・進路	125 件 (5.5%)	③ 友人関係	161 件 (13.0%)
④ 子どもと教師の関係	73 件 (3.2%)	④ 子どもと教師の関係	144 件 (11.6%)
⑤ 精神不安	65 件 (2.9%)	⑤ 養育・しつけ	89 件 (7.2%)

6 電話相談の時間帯



13時～17時の時間帯には、子ども、大人双方から多くの電話相談を受けていますが、子どもについては、学校から帰ってきてからの時間帯（特に17時～20時）にも多くの電話相談を受けています。一方、大人からは、午前中にも多くの電話相談を受ける傾向があります。

相談時間を20時までとしていることは、特に子どもにとって有効であるといえます。

7 その他

相談件数として計上はしていませんが、子ども専用の通話料無料電話には、無言電話やいたずら電話が169件ありました。（平成27年度は210件）

かけてきたのは、ほとんどが子どもであると思われませんが、中には相談をためらっていたり、相談員の反応を確認したいという気持ちが含まれていたりする可能性もあるため、慎重に対応しています。